# 第12回議会運営活性化推進協議会 協議概要

- 1 日 時 令和2年9月4日(金)午後1時00分から1時56分まで
- 2 会 場 議事堂3階 第2委員会室
- 3 出席者 (委 員)岩井委員長、段木副委員長、

鷲見委員、石川委員、阿部委員、植草委員、小川委員、 麻生委員、白鳥委員、三瓶委員、桜井(秀)委員、 森山委員、近藤委員、中村委員、福永委員

(オブザーバー) 松井議員

(事務局) 深山事務局長 他12人

- 4 **傍聴者** (議 員)渡辺議員 (一般傍聴者)なし
- 5 協議事項及び協議結果

※前回に引き続き、文書共有システムの試行運用を以下のとおり実施した。

- ・委員個人所有のタブレット及びスマートフォン、事務局より貸与したタブレットにより、会議資料を閲覧しながら協議を進めた。
- ・タブレット等により会議資料を閲覧する委員には、紙資料を配付せずに協 議を進めた。

# (1) 一般質問のあり方について

<協議内容>

前回の会議において委員から要望のあった、令和元年第2回定例会以降に 実施した一般質問の実際に要した時間について、事務局から報告があった。 その後、各会派から一般質問のあり方に対する会派の検討結果が報告され るとともに、非交渉会派及び無所属議員の意見について、聴取した事務局から報告があり、それらを踏まえて協議を進めた。

# <各会派の検討結果>

- 持ち時間は、会派制のメリットを生かすべきであり、現状のままでよい。
- ・1人当たりの持ち時間を年間80分の制限を設けて検証してみるのは どうか。時間制限が掲げられている中で、一般質問の質が向上すればと 考える。

## <非交渉会派及び無所属会派の意見>

- 持ち時間は、現状の運用のままでよい。
- ・1人当たりの持ち時間については、現状の定例会ごとではなく、年間として捉え、その中で各議員が自由に時間配分できるとよいのではないか。ただし、その場合、一般質問の日程が通告後でないと確定しないため、昨年から実施している会期の早期決定ができなくなるおそれがある。

# <主な意見>

・質問時間が、一括は60分、一問一答は40分と異なっている。一

括の質問時間の短縮についても議論していただきたい。

- ・年間(年4回)で見た場合、一括(年間最大240分)と一問一答(年間最大160分)の時間にかなり差があると感じる。
- ・無所属議員の質問時間は年間最大で80分であるが、会派所属議員は一括ならば年間で最大240分できる人もおり、会派制のメリットとはいえ3倍も違いが生じている。
- ・代表の質問時間も最大60分である。市政全般について質す代表ほど、 一般質問は項目も多くないので、ポイントを整理すれば、一括の場合も 一問一答と同様に答弁を含めて60分くらいにおさまるのではないか。
- ・質問・答弁時間が一問一答の通告時間の最大1.5倍に対し、一括が通告時間の1.7倍という実態がある以上、そのことについて、どのように見直すかというのは、課題の1つになるのかもしれない。一問一答を導入する際も、かなり白熱した議論があって現状の形となった経緯があるので、歴史的経緯も含めながら、検討していただきたい。
- ・一問一答を導入する際の議論のときは、一括の発言時間まで議論はしていなかった。導入からかなり時間も経っているので、議論することは非常に有意義であると思う。
- ・現状のルールでは、意見・要望など質問以外のことについて、何分話してよいかなどの決まりがない。極端ではあるが、質問を1分、持論を59分述べてもよいわけである。質問時間の短縮は、時間配分や質問の質の向上につながるのではないか。
- ・一般質問だけではなく、いろいろな質問のあり方を本来は議論しなけれ ばならないのではないか、一般質問の時間だけ議論するのはどうなの かというような意見が会派の中であった。正副委員長で、少し整理をし て議論しないとまとまらないと思う。

## <協議結果>

これまでの協議内容を踏まえた課題、それに対する委員の発言等、事務局で整理したものを次回会議前までに提示し、各会派で検討のうえ、次回会議において引き続き議論を深めていくこととなった。

## (2) その他

- ・委員から、感染拡大防止対策を行いつつ、傍聴する権利を守るために、委員会等の会議をオンラインで視聴できるよう検討することについて発言があった。
- ・事務局から、執行部からの情報提供資料を SideBooks に格納し閲覧できるようにすること、事務局からの会議開催通知を LINEWORKS のカレンダー機能により行うことについて説明があった。

## (3) 次回の開催日程について

令和2年10月5日(月)午前10時から開催することとした。